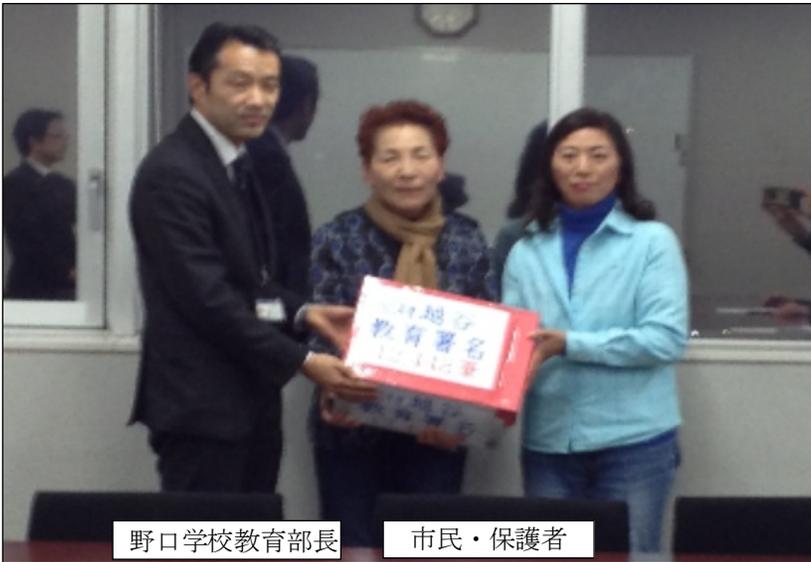


越谷でも30人学級を



野口学校教育部長

市民・保護者

署名一万二四四八筆を提出

二月二十三日、今年も「越谷市にも三〇人学級の実現を」の署名一二四四八筆を携えて、教育委員会に訴えました。提出には、保護者代表三名と越教組代表六名、計九名が参加しました。署名を受け取った野口学校教育部長からは「重く止めさせていただく」という発言がありました。

越谷では教職員組合、保護者・市民の有志が中心となり、少人数学級に消極的な姿勢を続ける県を飛び越え、越谷市独自で少人数学級を実現できないかと、十数年前から粘り強く署名活動をしてきました。

今年も、**秋田県全地区で三十人学級実現**のニュースに力をもらい、集めた署名を手渡しました。また、市民・保護者有志や教職員関係者が、導入の必要性の意見を要望を添えました。

越教組ニユース

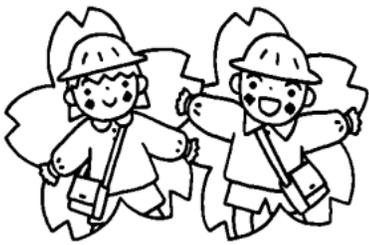
越谷市教職員組合
情宣部
16. 03.9 (火)
tel 988-3281
FAX 988-3283

市教委回答

市教委の野口学校教育部長からは、「ご要望については重く受け止めさせて頂いた。ただ越谷市にも優先課題があつて、難しい状況がある。少人数学級の早期実現と財政措置については引き続き国・県に要望して参りたい。」という回答があり、市独自の計画がないことを明らかにしました。

・秋田県での例。
・教師の目が行き届き教育効果が高まること。
・教師向けの予算要望アンケートでは十

年来不動の一位であること。
・その内容です。越谷市は学力向上や中一ギャップ、不登校といった問題を解決するために、小中一貫の取り組みを強化するといいますが、教職員の多忙化・健康面、児童・生徒の学力向上という点においても少人数学級を導入した方が効果があるのではないのでしょうか。



その額が妥当性を持つものなのか、どうしてもそちらを優先させなければならぬのか等も見定めつつ、組合は少人数学級実現にむかいます。

二〇一六年春闘始まる 越谷地域総行動

春闘が動き出します。二月四日、越谷松伏地区の一〇以上の団体が市内二か所に分かれ、活動報告と春闘に向けての要求を出し合い、交流を深めました。

越教組の発言は次の通りです。(中央会場)

今の状況が腹立たしく思う。

まず国が教育に金をださない。OECD参加三十四カ国の中でGDPに占める教育費の支出は数年連続の最下位。代わり

に労働時間はダントツの一位。

四十人学級が決まったのが五十代の私が大學生の時。それから三十数年たっているのに三十五人学級すら一、二年生で止まっています。学校図書館には常駐の司書さえいない。教育に予算を出させない。

次に腹立たしいのは、各種調査結果を基に競争を煽ろうとする風潮だ。私が子どもだった時分、先生は言っ

ていた。

「勉強は大切だ。テストの成績を上げるのも大事。でも点数を上げることは十分に気を取られていたらそれは学校ではない。」それが今では結果の向上が「上」からの指示となってきている。それだけの事情を考慮に入れない。メンツばかりが先走っているようで、教師として甚だ遺憾だ。

腹立たしく感じる状況を少しでも打開するため行動したい。

新聞報道 小学生超多忙

二月二三日の朝日新聞に、「小学生超多忙」という見出しとともに、今度の学習指導要領改訂で導入する英語の授業をめぐる問題点が掲載されました。「小学五、六年生は二〇二〇年から、正式な教科として英語を学ぶ。授業も週一時間分(一時間は四五分)増えるのだが、間割はすでにパンパン。さらほかにも多様な教育が求められるっており、小学生は忙しい。」との冒頭の概要のあと、「五、六年生の授業は、月々金曜のう

休み時間や夏休みが授業に？

ち火、水、金曜が六時間授業で、木曜の六時間目は委員会やクラブ活動に使う。休憩時間もせわしなく、体力向上のために、児童に縄跳びやマラソンなどをさせる。」とした埼玉県内の小学校の一日を紹介、その過密ぶりを示しました。その上での英語教育：現在、週一時間で、歌や遊びの外国語活動をしています。新学習指導要領では「読み書き」も含む教科になり、時間も一増となります。文部科学省は、英語の授業時間の確保の案に、休み時間を利用して一時間分を分割する。夏休みを使って集中して授業